

とんがらし通信



 No. 267 

～主な内容～

- ・施設長コラム
- ・実践報告会『すてーじ』
- ・活動紹介（温泉旅行 品田賢治 ほか）
- ・研修報告
- ・Close-up! ・職員コラム ほか

仙台つどいの家編集室
発行責任者 山口 収
発行日 2024年1月25日
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16
Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752
E-mail sendai@tsudoinoie.or.jp
ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



『結 (ゆい)』と『普請 (ふしん)』と『ゆいまーる』 の巻

お正月休みののんびりムードを切り裂く緊急地震速報の音に、慌ててテレビをつけました。お天気カメラに映ったのは繰り返す大きな揺れと、家屋の倒壊により土埃の舞う住宅街でした。そして、直後には津波警報・大津波警報が発令されたのでした。。。

元日に起こった能登半島地震のことが頭から離れません。規模や震度もさることながら、半島特有の不利な地形により今なお被害の全容が解明されず、集落全体が孤立したり避難所やテント・車中泊で凌いでいる方々が大勢おられます。17日には輪島市の中学生258人が家族と離れて白山市の施設に集団避難するなど、被災地を取り巻く状況は非日常を余儀なくされています。被災されたしょうがい福祉事業所も多数あります。中でも、東日本大震災の折にはるばる活動の支援に駆けつけてくれた『社会福祉法人佛子園』のみなさんの今の状況が気になります…。

佛子園の2名の職員さんがつどいの家の支援に入ってくださったのは、震災の3か月後でした。当時法人では泉区南光台にある『仙台つどいの家』とグループホーム『さくらはうす』が甚大な被害を受け、復興に向けて利用者・職員とも必死にもがいているところでした。そんな中で本当に助けられたなあと感じるのは、全国各地の施設から多くの職員さんが『活動支援ボランティア』に駆けつけてくれたことでした。震災後長期化する不便な活動状況の中で、利用者・職員の心の支えになってくれました。中でも忘れられない出会いは『ゆいまーる』という言葉でした。

佛子園から支援に入ってくれた職員さんが2週間のボランティアを終えて帰る際に、「僕の生まれ故郷の沖縄県には『ゆいまーる』ということばがあります。沖縄の人の心の中に昔からずっと生き続けていることばです」と言ってお別れの握手を求めてきました。何だか懐かしい響き。意味を聞いてみると「特にリーダーのいないインフォーマルなグループで、農家ではさとうきびの収穫をグループのメンバーが交互に協力してやってます。言ってみれば『助け合い』の精神かな」との由。うーん、いつかどこかで聞いたような。。。そうか、『結』か。『結』は岐阜県の白川郷に古くから伝わる共同労働の仕組みです。山深い白川郷は茅葺屋根の独特の景観を保っていますが、この茅葺屋根の葺き替えには今も『結』の制度が用いられます。30年に1回程度必要になってくる屋根の葺き替えには莫大な労力と費用が掛かりますが、集落の人々が協力して無報酬でお互いの葺き替えを手伝います。『ゆいまーる』はまさにこの『結』と同じ仕組みです。そういえば似た言葉に『普請』というのもあったっけ。

『結』も『普請』も『ゆいまーる』も、場所や時代は違っても、古くから日本人が大切にしてきた『おたがいさま』の気持ち。手伝ってもらったら次は手伝う。助けられたら次は助ける。人と人とのつながりは困難を乗り越えるとどんどん強くなっていきます。件の職員との別れ際、差し出された彼の手を握り返し冗談めかしてこう言いました。「万が一、不幸にして石川県で同じことが起こってしまったら、今度は私たちが駆けつけます!」と。



(みんなで寄せ書きした応援旗)

…あれから13年。万が一が起こってしまいました。。。地震直後の大混乱の中、当時支援に来てくれた職員と何とか連絡を取ることができ、たくさんのことを考えました。つどいの家が今できることは何か。被災された方の求めることは何か。私たちはできることを、一つひとつ続けていきます。明後日、先遣隊が能登に向かいます。

(管理者 山口 収)



仙台つどいの家「すてーじ」

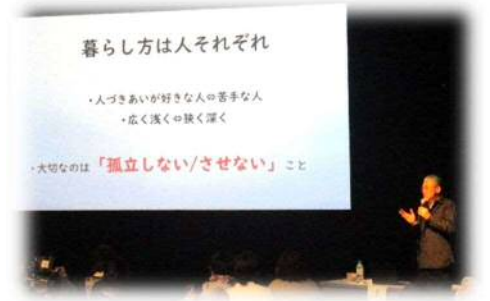


2023 開催しました！

2023年12月15日、せんだいメディアテークにて、仙台つどいの家「すてーじ」を開催しました。4年間の長い長いコロナ禍を経て、オンライン配信からようやく会場での開催にこぎつけました！！

私たちつどいの家は、しょうがいのある方も地域社会でいきいきと、その人らしい生活を送ることができるような街づくりを目指して活動しています。日常の何気ない利用者さんとの関わりの中には、びっくりするような発見や心が震える感動がいっぱい詰まっています。それら一つひとつの実践を短い映像にまとめたものが「すてーじ」です。

第一部では、だれもがともに小平ネットワーク理事の本庄一聖さんにお越しいただき、「地域に根差して自分らしく生きる」をテーマにご講演をいただきました。講演を通して、個人の「変わる」から周りを巻き込み、社会まで「変わっていく」繋がり。人の暮らしは人それぞれで、「孤立させない」という私たち支援員・地域の一員としての宿命の大切さなど、GH生活のエピソードもお聞きしながら多くのことを学ぶことができました。本庄さん本当にありがとうございました！！



第二部は、いよいよすてーじ上映です。今年度は、新作品として福地璃子さん・佐々木健郎さん、リバイバル作品として佐藤咲子さんのすてーじを上映しました。

璃子さんのすてーじでは、通所を開始して10年。つどいの家という社会の中で、「選択」「意志表出」について、支援員と璃子さんとの沢山の経験を経て成長していく姿が描かれておりました。佐々木健郎さんは、生活リズムの崩れやお母様のご逝去などで中々通所が難しい時期もありながら、健郎さんがつどいに通所するにはどうしたらいいのか。ご兄妹と叔母と支援員との繋がりや、やり取りを通じて今の生活・通所に至るまでの物語となっています。リバイバルで上映した佐藤咲子さんのすてーじでは、前作に加え最近の様子として、GHでの一人暮らしを実現し、毎日片道1時間かかるつどいの家までバスを乗り継ぎ通所している姿。また昨年春に東京へ転居した母に一人で会いに行くという新しい目標に向かって再出発する姿がありました。3名ともそれぞれの人生の中でたくさんの環境を巻き込んで生活していくこと、それによって地域・社会が変わっていくという一人ひとりの生きざまが支援員の想いと一緒描かれており感動物語でした……。作成者の皆様お疲れさまでした。

〇ご来場いただいた方々より、感想をいただきましたので一部ご紹介したいと思います(^_^)

- ・講演を聞いて「地域に出ていくことの大切さ」実際に自分はどうかを考えさせられました。
- ・一人ひとりに合った支援を考えていただき「仙台つどいの家」の存在の大きさを改めて感じました。
- ・親は本人には理解が難しいと思っけていても、支援員さんたちのいろんな方面からの可能性を引き出してもらえて本人の世界が広がっていくのだなと感じた。
- ・それぞれの利用者さんがこんなにもできるようになったんだとか、考え方とか、家族の接し方も勉強させられました。長い時間で見ると我が家でも少しずつやっいていこうと思えました。

皆様、ご参加いただきありがとうございました😊

また来年度も、素晴らし作品とご来場の皆様にお会いできることを願っております！！

(記：高橋あ)

秋保温泉旅行 TAOYA

10月に後藤彩也佳さん、松田翠さん、田中七海さんは秋保温泉へ1泊の温泉旅行に行きました！この日のために、今年度は4月から何回も話し合いや準備をしてきました。

まずは行き先、いろんな場所や旅館を調べていく中で、秋保にリニューアルオープンしたばかりの旅館を発見！和室で温泉も広々、朝食・夕食ともにバイキング、、ここならゆったりと温泉旅行を満喫できそう！ということで、「TAOYA 秋保」に旅館を決めました。

計画を立てるだけでなく、お泊りの練習のため、7月にショートステイを利用して、旅行のシミュレーションも行いました。また、9月には実際に旅館の下見にも行き、段差やお風呂の広さなどを確認しました。一緒に行く仲間と準備を進めることで、少しずつ温泉旅行のイメージが湧いてきたようでした。ついに迎えた温泉旅行当日！天候にも恵まれ、3人ともワクワクした表情で向かいました。秋保大滝を経由しながら旅館へ到着し、まずは温泉へ！広くてあったかくて、翠さんは両手でお湯をパシャパシャ！彩也佳さんは全身の力が抜けてユラユラ！七海さんは露天風呂と内風呂を行き来して、それぞれ温泉を満喫しました。お風呂上りは自分で選んだ浴衣に着替え、夕食バイキングの会場へ。和食に洋食、スイーツなど、テーブルの周りをぐるっと美味しそうな料理が囲んでいます。それぞれ食べたいものを選び、いただきます！七海さんはお肉にお魚、デザートまで綺麗に盛り付け、おかわりもしながら食べていました。翠さんは炊き込みご飯やパスタが特に美味しかったようで、どれもパクパクとペースよく食べ進めていました。彩也佳さんもたくさん味見をし、ローストビーフやホヤ、牛タンなど、どれも口をたくさん動かし、目をパッチリと開けて味わっている様子でした。夜は布団を並べて敷き、のんびりしたり、夜食のアイスを食べたり、枕投げをしたり…旅行ならではの夜のひとときを過ごしました。

無事に旅行を終え、アルバム作りもしました。「おつかれさま会」ということで、12月にはイタリアンレストランでランチをしながら、完成したアルバムを見せ合い、それぞれの思い出を振り返りました。

4月の話し合いに始まり12月の打ち上げまで、温泉旅行へ行くという大きな目標に向けて一つ一つ準備を進めてきました。長い時間をかけた分、利用者同士の仲間意識も高まり、「仲間と一緒に」旅行をする楽しみを味わうことができたのではないかと思います。いつもの通所だけでは見られない様々な表情が見えました。温泉大好き女子3人組、またどこかへ行きたいですね！
(記：淡路)



品田賢治 IN TOKYO

11月10日、品田貴文さん、櫻井賢治さんと職員3名で日帰り東京旅行に行って来ました。学生時代の同級生でありつどいの家の同期である品田さんと櫻井さんは、密かにこの計画を温めていました。

朝9時の新幹線で仙台を出発し、新幹線の中ではおやつ交換をしたり、楽しく会話したりと修学旅行のように和気あいあいと過ごし、東京まで本当にあっという間でした。心配さ

れたお天気ですが雨に当たることもほとんどなく、無事にスカイツリーの下で記念写真を撮ることができました。展望デッキからの眺めもとても綺麗で、東京の街を見渡すことができました。高所恐怖症の職員が極端に怖がるなか、2人とも全く怖がる様子はありませんでした(笑)。

今回入職して3か月で東京に行くが決まったときはとてもプレッシャーに感じていました。「行く途中で何か起こったらどうしよう」など不安だらけでした。ですが実際に行ってみると不安以上に楽しさが上回り、本当に行かせていただきありがとうございました。仲良し2人の旅行に同行させていただき、とても幸せな気持ちになりました。

(記：斎藤)



紅葉の泉ヶ岳

秋が深まってきたころ、泉ヶ岳へ行ってきました。メンバーは富田樹さん、佐藤咲子さんの他に 2020 年太白山を散策しているときに仲良くなった鈴木和夫さんです！鈴木さんは年間 60 を超える山を登頂する山の達人。たくさんの人をガイドし山の魅力を伝えていて、今回は泉ヶ岳の中腹にある「水神碑」を目指して歩きました。

鈴木さんとはふもとの駐車場で合流し、樹さんも咲子さんも「ガッツポーズ」であいさつをしています。道中は紅葉が綺麗だったのですが「熊出没注意」という看板が…。そんな中咲子さんはお父さんからもらった立派な熊除けの鈴を鳴らしながら意気揚々と歩きます。厳しい山道のため、咲子さんの歩くペースも次第にゆっくりになってきましたが、鈴木さんからは「山は逃げない！ゆっくり行こう」とアドバイスをもらい、定期的にクールダウンの時間を設けペースの管理をしてくれました。

そんなこんなで目的地の「水神碑」まで到達。樹さんは鈴木さんと一緒に「山の神様ありがとう」と水神様にお辞儀をしています。

最後にみんなで記念撮影。「また一緒に山に登りましょう！」と言ってお別れしました。3年前太白山ですれ違った時に咲子さんが偶然声を掛けたのがきっかけでの繋がりのなのですが、こういった素敵な縁を大事にしていきたいと思いました。改めてありがとうございました！！(記：松原)



3施設研修会からの... 4施設交流会

3施設研修会は、西宮の青葉園、愛知の愛光園、横浜の朋という、いわゆる重症心身障害といわれる方が通所する3施設で行なわれていた研修です。30年以上前に、まだサービスの無いころから先進的な取り組みを行ってきた3施設です。3年前からその研修会につどいの家も参加させていただいています。今回のテーマは、『共に幸せになろう～本人さん一人ひとりの大きな存在と共に私たちはどう歩んできたのか、そしてどう歩いていくのか～』。11月26日にオンライン形式で行われました。愛光園の元施設長廣瀬治代さんから「私たちは何を耕してきたのか、～一人ひとりの自己実現という土壌から創造と生産を通して幸せをわかち合うために～」というテーマでお話を頂きました。覚悟をもっていて凄みのある、パワーを頂けるお話でした。当たり前なのですが、利用者さんに丁寧に「聴くこと」を行っていて、感性でお互いを感じあい、重心の方々の想いを「わかる」と自信をもって言えることが素晴らしいと感じました。「本人主体」のお話では「何でも自分で決めています」という施設の方に「本当に？」という廣瀬さんの問いかけにぐさりときました。私たちのかわりも「本当に？」しっかり丁寧に「聴くこと」が出来ているのか再度確認が必要と感じました。最後に、廣瀬さんが遺言と仰っていた、「個性的な自己実現、言霊を聴くこと、亡くなっていった方々の想いを、具体化し具現化していくこと」私に何が出来るか考え続けていきたいと感じました。

後日行われた4施設交流会は、レジェンド3施設に仙台つどいの家も混ぜていただき、ウェブを使って交流しました。仲間が頑張っていたり工夫した活動を見ることで、とても刺激になっています。いつもありがとうございます。（記：佐藤智）

全国知的障害福祉関係職員研究大会

In 山梨



11月16日、17日に全国知的障害福祉関係職員研究大会に参加しました！対面では4年ぶりの開催となり、今回は山梨での大会になりました。

会場では窓いっぱいの富士山を見ながら、当事者の方のお話や生活困窮者を支援する方のお話、相談支援専門員のお話、法律のお話など…を聞いてきました。

印象に残ったのは、当事者の方のお話でした。支援を受けてきての本心を当事者の方が語ってくれました。支援者側は、良かれと思って利用者さんのリスクを回避しがちですが、「一緒にリスクを経験してほしい」「体験する場を奪わないでほしい」と声を上げて話してくれました。こうして本心を語ることは簡単なことではなく、聞いてもらえるか・馬鹿にされないかという不安の中で話していることも教えてくれました。日々、利用者さんと関わっている私たちですが、しっかりと利用者さんの本心に耳を傾けることができていたのかどうか改めて考えさせられました。そして、「一緒に失敗する、それを経験にする」考え始めると難しいこともあります、少しのことでも一緒に経験することを忘れずにこれからも関わっていきたく感じました。（記：二階堂）



Close-up

たんぶ みづき 反怖 美月 さん

今回のクローズアップは、もみじグループの反怖美月さんです。美月さんは、昨年4月に通所を始めたばかりの19才!!いつもニコニコかわいい笑顔で、みんなの人気者です。美月さんの好きなことは、お出かけ、ハンバーグやスイーツなどのおいしい物を食べる事、水遊び、絵を描くこと、手遊び歌、クッキングなどなど沢山あります。手遊び歌では、“なっとうのうた”や“ジャカジャカじゃんけん”で手をクルクル回しながら歌うことが好きです。



夏には、ビニールプールで水遊びをしました。足だけを水につけるのでは物足りない!とザブンとプールに入り、全身で水遊びを楽しみました。

お出かけでは、車いすを自分でこいで、行きたい所へスイスイ移動します。仲間と一緒に食事したり、ショッピングでお洋服を買ったり、社会人ライフを楽しんでいます。

何にでも積極的にチャレンジする美月さん、とっても素敵なんです♪みなさんも、仙台つどいの家にお立ち寄りの際には、美月さんに会いにきてくださいね!きっとあなたも美月さんの笑顔の虜になるはずですよ♡(記:佐藤唯)



職員コラム

くまがい なおき 熊谷 直起 さん

10月よりけやきグループ職員に配属されました熊谷直起と申します。前職では動物病院で動物看護師として働いていました。小さい頃からカメやインコ、祖母の家で猫など飼っており動物と触れ合うのが大好きです。

週末にはご飯や飲みに出掛ける事が多いです。話題に上がるとすぐ行きたくなる質なのでおすすめのお店があれば是非教えてください!最近映画鑑賞にハマっていて、映画館まで毎週のように行っています(笑)

障害福祉に携わるのは初めてなのですが、自分の「好き」に素直で前向きな利用者さんばかりで日々驚いています。僕自身、自分を表現したりするのが苦手なので、とても羨ましく感じています。つどいの家を通して利用者さん皆さんの活躍の場を広げ、新しい可能性を見つけながら共に成長していきたいです!どうぞよろしくお願いいたします。



スケジュール schedule

令和6年 2月

- 3日(土) 休日開館日(めいぷる)
めいぷる小学生クッキング
- 5日(月) ケース会議 13:30 降所
医療的ケア安全委員会
- 7日(水) ~15日(木) 表現展
- 8日(木) 音楽療法① 生け花①
- 9日(金) フードドライブ
- 15日(木) 防災ネットワーク訓練
- 19日(月) 仙つ権利擁護委員会
- 22日(木) 音楽療法② 生け花②
- 23日(金) 祝日開館日
- 26日(月) ケース会議 13:30 降所
- 27日(火) 仙つ衛生委員会

令和6年 3月

- 1日(金) 法人衛生委員会
- 4日(月) ケース会議 13:30 降所
医療的ケア安全委員会
- 7日(木) 音楽療法①
- 8日(金) フードドライブ
- 14日(木) 生け花①
- 15日(金) 防災ネットワーク訓練
- 20日(水) 祝日開館日
- 21日(木) 音楽療法②
- 22日(金) ケース会議 13:30 降所
- 28日(木) 生け花②
- 29日(金) ケース会議 13:30 降所

ボランティアとして協力して頂いた皆様 ご協力ありがとうございます

(令和5年11月13日~ 令和6年1月12日まで)
吉田さん、高橋さん、山下さん、平さん、板垣さん、松野さん

見学・来訪者など

りぼん、Tagomaru ステイ、金管n重奏、りんごの木、あぐり仙台、NICO小松島、コスモス鶴ヶ谷、セントケア仙台東、仙台ひまわり訪問介護ステーション、はまゆう青木さん、小野寺さん、光明支援学校、針持後援会会長、訪問調査センター、幸町市民センター、ぐれーぷハウスかすみ、ピーススマイル石道さん、ヤマハミュージック仙台、ういずゆう猪苗代さん、グリストラップ、風の郷工房、共栄防災、泉区役所、まんさく工房、マルイ、サトー商会、ほまれフーズ、マルゼン、マルキ水産、TOTO、東北食材、
法人職員：彩乃、菊地、福地、高杉、只野、小林、半沢、村上、横山、美紗希、小沢、亮子、愛里、裕絵、川口、渡部、三浦、山口、小原、
ほか多数 (以上、ご芳名順不同)



にこりほっと

くるみグループの高橋邦明さんは、もみじグループの利用者さんの車いすを押してくるみ居室へ案内して下さることがあります。

先日は、大野夏海さんを連れてくるみ居室へ。夏海さんを見つめて「可愛い～」と微笑む邦明さんの言葉を聞いて、夏海さんも笑顔になりました。また別の日には福地璃子さんを連れてくるみ居室へ。くるみ居室にやってくる前まで泣いていた璃子さんでしたが、笑顔が戻り、落ち着いて過ごすことができました。

邦明さん、いつももみじとくるみを繋いでみんなを笑顔にしてくださりありがとうございます！



缶回収 12、1月分の納品額

合計 5,115 円でした。

ご協力ありがとうございます



編集後記

2024年が始まりましたね。晴れて人生2度目の年女になった私の今年の個人的な抱負は「脱・暇人」です。昨年は暇を持て余し、残りの人生の長さに気が遠くなる日々でしたが、今年は自分が心地よいと思えることに時間を使いたいです。今年も皆様ご多忙とは思いますが、ご自身の心と身体に優しくなれる瞬間が一瞬でも多くありますように、と心より祈っています。(菅原)